

令和3年度 庄内町振興審議会 産業建設分科会【議事録】

日 時：令和4年3月22日(火) 午後6時30分

場 所：役場 B棟2階 会議室4

出席者：高橋義夫委員、金子尚毅委員、渡會正委員、吉田勝紀委員（分科会長）
（事務局）阿部企画情報課長補佐、岡本

欠席者：

1 開 会 18：30 阿部企画情報課長補佐 開会・進行

会議の進め方、配布資料の説明。

2 協 議

（1）意見書確認と集約（別紙資料）

【吉田会長】本日は分科会の意見をまとめて、全体会にあげていく。忌憚のない意見をあげてほしい。出された意見からいったん絞り込む。その後に気がついた点を掘り下げていく。

【事務局】参考までに過去の答申書の写しを配布している。数年にわたり継続されている内容もある。関連づけながらご検討いただきたい。

【吉田会長】事前に出された質問・意見とそれに対する町担当者からの回答の確認を行う。

【金子委員】ガスについて。庄内町のガスは町内生産だけでなく他地域から購入しているものもある。東日本大震災の際に都市ガスや水道は止まらなかった。風呂も沸かせた。オール電化ではそうはできなかった。自家発電があれば別だが、災害時にもガスがあればいろいろな対応ができる。この先何十年もつのかという疑問もあったので質問させていただいた。

【事務局】庄内町で供給しているガスは、町内生産ガスと企業から購入したガスをブレンドしている。

【吉田会長】災害時利用に有効なため、重要性を意識しながら利用推進してほしい。77 ページのベンチマークはガス分野では4つあるが中身についてはどうか。

【金子委員】設備のことに限ってのみの成果となっている。設備の長寿命化などの整備は進んでいるが、燃料の蓄えがどうなのか疑問に思う。

【吉田会長】設備に関してはおおむね良好と見てよいようだ。庄内町の統計 32 ページにも利用状況が記載してある。現在の町の施策としては供給設備整備を目標値としている。

【金子委員】燃料の残量がどのくらいあるのかを数値として把握しておくべき。本町には風力発電もあるが蓄電がどのくらいできるのか。停電しない災害に強い町、ガス利用で災害に強い町を目指すべき。

【事務局】計画の内容を変更するには議決が必要。今おっしゃった目標の設定については、時期計画策定時に見直し変更したい。

【吉田会長】空家解体について補足はあるか。

【事務局】空家の危険度はランク付けされている。最も危険なDランクは40件ほどある。令和7年度までにCランクのものが老朽化が進んでDランクになることも考えうる。各集落から実態を聞きながら傾き具合等の国で示した基準によって判断する。

【吉田会長】次に除雪対策について、高橋委員いかがか。

【高橋委員】今年は特に雪が多かった。隣の一人暮らしの老人宅の除雪手伝いをした経緯があり質問させてもらった。自治体中心に除雪補助の取り組みをアピールしていく方向で動いていただき、利用したい住民に情報が届くようにしてほしい。

【吉田会長】今年は雪が多く、除雪車が来ると置いていく雪の塊は高齢者では対応が困難。施策という部分でどのように解決するのか伺いたかった。除雪車がいつ来るのかなど、除雪に関する情報が不十分である。

【事務局】建設課の担当で毎年反省点も含めて検討会を実施している。

【金子委員】見守り隊、交通安全指導員、自治会長、建設課等の会議において除雪の支援は何かないのかという

話題を振った。徒歩通学の子供たちは積雪により歩道を通れない。建設課長からは地域ボランティアで歩道除雪等をすると助成金が出ると話があった。

【吉田会長】不安に思っているところがいっぱいあるので、不満・不安を解消するような施策・ベンチマークの達成率を高めることに努めてほしい。除雪に関しては今年が大変だったことは皆さんわかってくれるが、満足度を高めることに努めてほしい。次に、農業政策についてはいかがか。

【高橋委員】本冊の資料の文面に関しては問題ないが、あえて言わせてもらえば、今年は特に米価の下落が大きな問題になっている。経営の柱にしている花については今年はやかった。以前は土壌が疲弊している部分もあったが、最近では改善に向かい明るい兆しもあるということで整理してほしい。ヘルパーについては人手不足のところもあるので質問させていただいた。

【渡會委員】農協の組合員からも指摘されているところ。園特関係ではヘルパーが必要な時期がある。持続して雇用されれば働き手もいるが、定期的など、まとまった日数で雇われないなどの問題がある。今年は野菜価格がかなり下落した。ネギなど1/3ほどまで。やればやるだけ赤字になってしまう状況。これからの農業は大変になってくるので、価格補償について行政対応してもらえるとありがたい。

【事務局】答申書の(4)にあるものが毎年記載しているものになるが、コロナ禍という問題も含めて答申に上げるということはいかがか。

【吉田会長】花はよいのか。

【渡會委員】高齢化でやめていくのは園特の生産者が多い。花、ハウス栽培の野菜の生産者は高齢化によって減少していく。花の生産者で若い方は少ない。60代前半くらいの方々もこの先10年くらいでリタイアしていくことが予想される。委託される作付面積が大きくなると園特に向かう余裕がなくなる。

【吉田会長】庄内米という大きなブランドはあるが、庄内町産というブランドにはならないか。

【渡會委員】酒田は行政中心になって土壌改良剤を活用している。

【吉田会長】ブランド化するには特色がないと難しい。ところで、認定農業者数の基準というのは難しいのか。

【渡會委員】現況で考えて、3年後や5年後までの計画を自分で立てて取り組む認定農業者。年配の方になると認定農業者に手を挙げるのがなくなる。補助をもらっても計画値に達しないと補助金返還などの問題になってくる。

【吉田会長】認定基準のあり方などの見直しや支援が必要と考える。外国人労働者の雇用などは考えられないか。

【高橋委員】農業者の全体数が減少している。大農場でもなければ外国人労働者の雇用は考え難い。

【吉田会長】商工部門ではPayPay 還元の恩恵・効果は大きいと感じる。使えない人への配慮は必要だが、DXはどんどん推進していただきたい。デジタル化はこの2年でだいぶ進んできたと感じる。マイナンバーカードの保険証利用装置を設置する医療機関も増えてきた。印鑑証明もコンビニでとれる。役場に来なくてもコンビニで完結するのはものすごく便利だと感じた。

【高橋委員】6次産業化で商品開発を進めているようだが、どこで買えるのか、何が人気なのかなどが見えてこない。

【渡會委員】販売にいたるまでに、生産・加工する場所や衛生対策の問題もあり。加工場が利用できるのはありがたいが、高齢になると生産・加工をやめてしまうなど、長期継続とまらない問題もある。

【金子委員】統計情報で事業者数と従業員数について補足説明いただいた。少子化はもちろん、建設業は不人気業種となっている。雪対策も建設業者頼みになっているが、深夜・早朝の除雪の後に本業の現場に行き、また深夜には除雪作業。建設業の継続は雪対策や雇用対策に全部つながってくる。入職者、従業員数は減る要素の方が大きいですが、地域継続にも大切な分野であるので、対策してほしい。

【吉田会長】大切な項目になってくるので次期計画の中に加えてほしい。製造業、建設業がどこにも入っていない。また、ロボットやデジタルを利用する情報産業はこれからどんどん誘致してほしい。情報産業の拠点は世界中どこにあっても機能する。そういった点もあるので数値目標としてしっかり検討いただきたい。製造業、建設業の数値が把握できないのは問題である。

【金子委員】若者定住については現在の数値は良好に見える。移住で呼び込み、出ていかないで住み続ける定住に力を入れるべき。現在は出ていく方が明らかに多い。外でなければ学べない・経験できないことなどもあるので、出ていくなとは言わないが、Iターン・Uターンなど「庄内町に戻ってくれば得をする」という施策があればと思う。令和元年からは右肩上がりのように個人向け住宅の新築数は増えている。エリアとしては酒田・鶴岡が多い。酒田・鶴岡は二中のところを住宅街に造成して販売促進した。安価で買えるようだ。

心の医療機関がある地域を造成して販売もしている。アパートでは手狭な若い世代がマイホームを建設している。家を建てると年末調整のときにいろいろな補助が出て減税になる。庄内町は民間事業者に頼って土地を求めてもらって販売している。ここを町としてもお金をかければ土地取得や移住数値はものすごく上がると考える。集落内に伝統がありすぎる地域には若い人はあまり来ないかもしれないが、町場の開発・造成で推進していただければ数値は伸びると思う。土地を安く売る、マイホームを建てない人には売らない、転売禁止等のしほりをつけるということも考えられる。酒田の京田は全部売れた。土地の値段を半値で出したから。町としても土地取得支援の取り組みをするべき。

【吉田会長】114ページの④にも関わってくる。民間だけでなく、町でも取り組むべき。

【渡會委員】宅地造成の絡みで、10年前くらいまではやっていたが、今は需要がない。宅地造成で若者を集める対策は間違っていないと思うが、若者世帯が酒田や鶴岡に移住し、年配世帯が町内に残っている状況。宅地造成しても効果はあるのか。

【吉田会長】利便性が高いなど、若い人が住みたい条件がある場所は売れていく。

【事務局】街中は建売住宅が多く見られる。

【吉田会長】余目は鶴岡や酒田と比べて土地も建物も高いと言われる。生活の便がよいところは宅地造成すればすぐ売れる。

【高橋委員】アピアの跡地は宅地造成する予定。

【吉田会長】清川は空家だらけで店もなくなっている。よほどの事情がない限り若い人は住まない。売り家も売れない。何が定住するために大事なのかの答えが出てきたように思う。

【金子委員】人口減少は避けられないので間口を開ける施策を。

【吉田会長】まずはお試しでもよい。そのあと住み続けたいと思えるような施策を体感できるように。立谷沢の冬イベントについて意見が出されているがこの点はどうか。

【高橋委員】立谷沢の冬イベントについて、雪を活かしたおもしろい企画はできないものか。イベントでもなければわざわざ立谷沢に遊びに行くことはないと思われる。スキーマラソンなど企画してもおもしろい。

【吉田会長】清川河川敷も芋煮会などができるよう整備されている。大蔵村肘折は夏まで雪をとっておく取り組みもある。イベントを期待したい。響ホールについての意見はどうか。

【高橋委員】響ホールに行くのは免許証の更新のときくらい。あまり人は入らないが音響設備はよいものが整備されている。利用付加価値をあげてイベントを企画してもよいのでは。文化施設の有効活用を。

【吉田会長】町全体が暗いというイメージがある。ライトアップなどきれいに映し出すものなどがあればよい。イルミネーションでもよいが、若者の意見は「明るい町がいい」というもの。明るさは電気代がかかるが町の元気を維持するためには必要な経費。コンクリートの塊があるだけでなく、外からみた存在感が出るような取り組み、「いつも何かをやっている雰囲気」が出せればよい。

【吉田会長】では、答申書に掲載する項目の選定に入る。今まで出された意見をまとめると、(1)除雪対策の改善(2)農林水産業・後継者育成等(3)庄内町産の作物・資源・体験のブランド化とPR(4)建設業・製造業に関する数値を示すこと(5)移住定住促進・分譲施策の充実(6)デジタル化推進という6つの項目について重点が置かれていると思われる。まち・ひと・しごと創生総合戦略については(1)観光PRとしてSNSや動画による情報発信(2)道の駅のJAF等とのタイアップによる周知、過疎地域持続的発展計画については(1)ふるさと納税施策による財政強化(2)清川・立谷沢地区の地域を盛り上げるイベント・施策(3)響ホールの利活用、いつも何かをやっている雰囲気を出すことという項目にまとめられる。本日から出されたご意見を踏まえ、これらの項目について素案作成を事務局にお願いすることでよいか。

【委員全員】異議なし。

【吉田会長】では、意見を集約した素案を作成いただき、内容を確認したうえで次回全体会に提出する。

3 その他

4 閉 会 20:30

令和3年度 庄内町振興審議会 総務分科会【議事録】

日 時：令和4年3月23日(水) 午後6時30分

場 所：役場 B棟2階 会議室4

出席者：加藤容委員（分科会長）、佐藤あゆ子委員、門松秀樹委員、加藤修一委員、阿良直美委員
（事務局）阿部企画情報課長補佐、伊藤

欠席者：

1 開 会 18：30 阿部企画情報課長補佐 開会・進行

会議の進め方、配布資料の説明。

2 協 議

（1）意見書確認と集約（別紙資料）

【加藤会長】本日は分科会の意見をまとめて、最終的に事務局よりまとめていただく。それぞれ事前に挙げていただいた意見を元に進めていきたい。

【事務局】参考までに過去の答申書の写しを配布しているので参考にしながらご意見等を伺いたい。

【阿良委員】花のまちづくり事業について、花のまちコンクール参加団体数や活動する団体が減少しているため、道路に面する花壇等は手がかけられていない状況である。このような状況の中で緑化意識を高めることができるのかどうか懸念される。

【事務局】現状参加団体は減少しているものの、担当課においては参加団体を増やすために尽力しており、今年度は手入れの手間がかからないように、多年草も1種類手配していた。公民館もコミセン化となるため、そこも連携していけたらと考えている。

【加藤委員】花のまちづくり事業に係る管理については、立谷沢地域では老人クラブへ委託していたが、老人クラブの方々の人数も少なくなり、決まった方しか行わないため、植えるだけならまだしも、水やり等の管理が大変であることから、今年度で終了することが決定した。

【佐藤委員】そもそも花のまちづくり事業の目的は何か。緑化が目的なのか交流人口の増が目的なのか。緑化目的であるならば、多年草を植えて手間をかけないようにするのも一つの手であるし、一年草ならば様々な人が関わるのは事実である。根本的な目的に立ち返って考える必要があると思う

【阿良委員】場所によっても管理しやすい場所とにくい場所がある。土地や場所に適した花を植えるのも一つの手ではないか。

【事務局】旧町それぞれで特色があったかと思われる。旧余目町においては地域づくり（交流人口）であり、旧立川町においては緑化を目的にしていた。

【加藤会長】その他の点についても協議したい。門松委員はどうか。

【門松委員】住宅・定住促進、人口対策については過疎の問題もあるので取り上げるべき課題だと考えている。また、町民参画・協働についても自分の町であるからこそアピールしていくことが大事であり、強化していくべき部分である。来年度からコミセン化になるという事であるが各公民館の稼働率はコロナ等の影響もあるがどうか。

【加藤会長】各公民館の利用率はとても高い。それなりに皆さん利用されているようだ。

【門松委員】鶴岡市中央公民館の稼働率はとても高く特にイベント等での利用が多いようであるため、庄内町の状況を伺ってみた。

【佐藤委員】コミセン化になることによって今までよりも自由度が高まると思われる、今までは営業的なイベント（物販等）が行えなかったが、コミセン化により行うことができ更に稼働率は高まると考えられる。響ホールだと広すぎるが、公民館だとコンパクトで使いやすいためとても期待している。

【門松委員】今までのながれから反れてしまうが、事前に挙げた意見内容の部分で新エネルギーのベンチマークとなっている新エネルギー導入比率について、資源エネルギー庁の報告によると再生可能エネルギーの発電電力量に占める割合が全国で18%であるにも関わらず、庄内町では目標値が70%となっている。この新エネルギー導入比率は庄内町の風力発電量に占める割合という認識で間違いはないか。

【事務局】おそらく違う考えの数値だと考えられる。

- 【門松委員】再生可能エネルギーについてはエコだという認識がありながらも、プロセス等も含め本当にエコなのかどうか再検討されている部分がある。耐用年数終了後の処理等も金銭的にも負担となっているようだ。
- 【加藤会長】デマンドタクシーについて利用率は多いのか。
- 【事務局】デマンドタクシーは狩川地域での運営となっており、利用率は減少してきているようだ。路線の廃止等も今後予定されているようであるため、公共交通の課題は庄内広域的に検討していくべき課題であることから、今後も見直しを図りながら進めていく必要がある。
- 【加藤会長】くるま座トークについてはどうか。
- 【事務局】くるま座トークについては、地域住民の各種課題要望の応えるため、要望のある集落へ職員を派遣して開催している。今年度もコロナが落ち着いた時期に開催している。LINE 等で情報も発信しているので幅広い面で周知媒体として活用していきたい。
- 【阿良委員】LINE を触れる機会がコロナのワクチン接種予約をきっかけにとっても多くなった。デジタル化が進んだことによって、移住・定住という観点においても、都会へ行かなくても田舎で仕事ができるという部分ではとても良い環境になったと感じる。なぜ若者の流出が多いのかと考えると地元には仕事がないというのが大多数の意見である。
- 【門松委員】若者の流出については、仕事がないという意見に加えて、自分の進路に見合う高校がなければ県外や私立高校へ進学するという学生も多くいる。より進路の選択肢の大きい首都圏に家族ごと転出してしまふ事例もある。今回のコロナ禍によって就職については自宅からでも仕事ができなくはないことを実証されたが、高校については全てをオンラインで行うのも厳しいと考える。
- 【加藤委員】前回の答申書では国際交流に係る人権的な部分や女性職員の登用の部分が記載されていた。事前意見としては挙げなかったが、進捗状況も踏まえて答申書として掲載しても可能か。
- 【佐藤委員】前回の答申書ではかなり話し合った部分であるため掲載すべきではないか。
- 【事務局】国際交流と女性登用の部分については継続的に答申書へ掲載しているため引き続き意見として挙げたい。
- 【加藤会長】その他に意見等はあるか。
- 【阿良委員】高齢者の自主返納を行った際にタクシー券が配布されるが、その他の公共交通の手段の周知について強化していくべきと考える。
- 【佐藤委員】デマンドタクシーにしても町営バスにしても公共交通の手段についてはもっと周知を強化していただきたい。知らない町民の方も多くいるためそれだけでも利用者が増加すると考える。
- 【事務局】デマンドタクシーに限らず先ほども話題に挙げた各種制度の周知についても強化していく必要があるため、情報周知の強化や公共交通の手段の部分についても答申書へ組み込んでいきたいと思う。
- 【加藤会長】まち・ひと・しごと創生総合戦略の部分についてはどうか。
- 【佐藤委員】門松委員が記載している空家の登録物件が少ないという件については、単純に登録を行わない方々が多くいるためだと考えられる。空家の利活用についてはただで貸し出たくないという家主も多く、なかなか登録に結び付かない。定住・移住に付随して、町営住宅の利用者条件を緩和していただきたい思いもある。海外のとある国では、人口流出が大きな課題となっていたが、町営住宅等を単身者も可としたことで人口増へ繋がった事例がある。時代のニーズに合わせて町側も対応していただけたら。
- 【事務局】では、答申書に掲載する項目の選定に入る。今まで出された意見をまとめると、総合計画後期基本計画については、(1) 国内外交流における「国際理解・交流活動の推進」(2) 男女共同参画に係る女性登用率向上 (3) 高齢者の免許証自主返納後の制度周知 (4) 道路・公共交通（デマンドタクシー）等の制度の周知充実を図る (5) 住宅・定住促進という 5 つの項目について重点が置かれていると思われる。まち・ひと・しごと創生総合戦略及び過疎地域持続的発展計画については総合計画で網羅されている部分であったため、内容は割愛する。本日皆さんから出されたご意見を踏まえ、これらの項目について素案作成を事務局にお願いすることでよいか。
- 【委員全員】異議なし。
- 【加藤会長】では、意見を集約した素案を作成いただき、内容を確認したうえで次回全体会に提出する。

令和3年度 庄内町振興審議会 文教厚生分科会【議事録】

日 時：令和4年3月23日(水) 午後6時30分

場 所：役場 B棟2階 会議室1

出席者：梅木均委員（分科会長）、佐藤道子委員、海藤喜久雄委員、吉田正子委員、渡部菜穂子委員
（事務局）阿部企画情報課長補佐、武田

欠席者：

1 開 会 18：30 武田 開会・進行

会議の進め方、配布資料の説明。

2 協 議

(1) 意見書確認と集約（別紙資料）

【梅木会長】資料の網掛け部分の意味を知りたい。

【事務局】意見等というより質問的な意味合いとしてとらえたものを網掛けにしている。

【梅木会長】一人ひとり出された意見の説明から入ってよいか。

【事務局】総合計画後期基本計画に対する部分から記載された意見等について、一人ずつ補足説明があればお願いしたい。

【梅木会長】それでは、佐藤委員からどうぞ。

【佐藤委員】子育て支援の部分で、小児科、産婦人科の部分は継続して要望してほしい。それから、高齢者支援のところ、通いの場を早めに立ち上げ充実させてほしい。コロナ過でできなかったという記載が結構あったが、新規立ち上げ支援が必要だと思う。次に、幼稚園・学校教育部分で、以前に学区再編が諮問の中にあったが、いつの間にか立ち消えてしまったので復活してほしい。参考でいただいた資料にはあったが、公民館をあわせた学区の再編、子供たちが減るので学校そのものが減るのではないかと、学区の再編も考えていかなければならない。地域で問題が起きないように、早めに関係者の方々と進めていかなければならないと思い、進み具合も含めて書かせていただいた。あと、ベンチマークで青少年育成の家読の指標 70%がどうやって出した数値かわからなかった。また、文化活動には子供たちから参加してもらいたいが、先生の働き方改革があって、学校で参加できないとか、難しいという話があったので、地域と一緒に関われる行事があった場合、参加できる体制にしてもらいたい。

【梅木会長】私が書いた意見も佐藤委員と同じで、学校施設適規模、適正配置検討部分で、昨年度直接町長に対して意見を届けられる審議会ができた。個人的にはここに書いてあるとおり、将来を見据え統合するか、小規模の良さを残した学校づくりをするかの検討が急務であるという意見を書いている。

【梅木会長】小児科の意見は他の分科会の人からも意見がでているようだ。切なる問題であると感じている。

【梅木会長】次に吉田委員、どうぞ。

【吉田委員】高齢者支援ということで、どうしても主となって動くのは大変なので、役場から主体となって頻りに声をかけていただいて、通いの場を立ち上げていただければ、地域の人たちがやりやすいのかなと思う。認知症の人は増えているので、予防のためにもそういう場があったほうが良いと考えた。障がい者支援は、なかなか関連性がないと感じる。障がい者がいたらこの人をどこで訓練させたほうが良いか、どこで社会復帰させたらいいかという道筋がまだできていないようなので、そういうところ体制整備するなどして進めていただきたい。あと、33項目のところは、1-3障がい者支援③障がい児支援の拠点の体制となっているが、中身が、精密検査未受診者への受診を促す体制づくりになっているので、1-5保健医療だと思う。

【事務局】そのように修正する。

【吉田委員】精密検査を受信する人が毎年そんなに増えない。コロナで未受診者がますます増えている状況があるので、なにかできないものかと思った。がん検診について重点にやっているが、第1次受診率は結構高いが、精密健診といわれた方の受診率が上がらない。そういう方々を受診させることができないか。

【渡部委員】会社でも同じ問題があって、1次健診は受けるが、2次健診は行けと言ってもいかない。

【梅木会長】再診をうけさせる仕組みづくりは必要。健康だと思っけていても再診でわかることもある。

【渡部委員】再診する人の気持ちをどう高めるかだと思う。1次は軽い気持ちでうけるが、ひっかかると諦めていかないという人もいる。

【佐藤委員】再診して大きな病気だったらどうしようという不安があって、受診したくないということもある。

【渡部委員】再検診はお金がかかるということもある。がんだとわかればがん保険がおりる場合があるが、そうでない場合の方が多い。その費用負担が嫌でいかないということもある。

【梅木会長】精密健診というのが2次健診のことで、その受診率が低いとなっている。受診率の向上には力を入れないと後々大変になる。それでは、次に海藤委員、どうぞ。

【海藤委員】今回は教育の方に意見をだしている。学校、幼稚園、保育園はどうしても人が集まるので、コロナ禍で教職員の皆さんも大変な思いでやっていると思う。コロナが大変だというのはみんな分かっている、コロナをゼロにすることはできないので、これからはコロナと付き合っていかなければならない。だから、コロナが大変だから何もできないということでは教育としては良くないと思う。この部分で、教職員の評価が下がっているというのが気になっている。大変だと思うが、そのなかでできること、評価をあげていくことをやらなければいけないのではないかと。ベンチマークに、ふるさととの教育推進、あるいは、夢や希望をもっているという部分、あるいは、人の役に立ちたいという部分があるが、例えば、問題を起こす若者は、自分の精神的な根っこがどこにあるかわからないまま過ごしているということを知ったことがある。やはり、生まれ育った家、地域、あるいは、庄内町でもいいと思うが、しっかりここに根を張っているところを、子供の時から教育とってしまうと振りかざすような感じになるが、そういうことを感じてもらえるような教育が大事だと思っている。そのなかで、志を育む重要性ということで書いたわけだが、こういった部分は非常に大事だと思うので、コロナに負けないで、コロナ禍でどういうことができるのか、そういう工夫が必要である。また、「自分には良いところがあると思う」子どものAB評価の割合が下がっているという分析がある。自分のいいところを自分でしっかりもっているか、もっていないかは、非常に大事な部分だと思っている。たとえば、運動と学習で例えられることが多いが、走るのが得意な子もいれば、学習が得意な子もいる。それぞれの得意な部分もみんなに見てもらっていいと思う。自分に何かしら自信を持てる部分がないと、何をやっても駄目だということになり、自己肯定ができなくなってしまう。自己肯定を何からかの形でもつことができる、そういう精神的な部分は非常に重要だと思う。

あと、農林水産の部分を書いたが、新年度からプロジェクトチームを立ち上げるということであるが、1次産業であれ、2次産業であれ、なんでもいいと思うが、特産品を作って町を売り出していくことのように、これは必ずやり遂げる、前に進めるという強い思いをもって進めないとなかなか実にならない。どういうプロジェクトチームで進めるかわからないが、生産現場と行政、試験場、普及センターなどが一緒になって、この地域の歴史をみて、どういった作物を育ててきたのか、それが今どうなっているのか、あるいは、作る人がいなくてやめてしまったとか、育たなかったのはどういう理由だったのか、そういった分析も含めて、今ある環境でできるのは何か、しっかりと議論の中で進めていかないとだめだと思う。これからの流れを見たいと思う。

【梅木会長】庄内町は全国に誇れる花とかを作っていると聞く。

【海藤委員】庄内町の花はもともと市場の評価も全国的に高かった。今は高齢化し、現場を卒業していく人が多く、入ってくる人が少ない現状から、少しずつ売り上げが下がっている。そういったところにもテコ入れしなければいけないし、あるいは、国の補助を活用するにしても排水対策が大事で、畑地化事業を進めるにしてもしっかりしたビジョンがないとなかなか難しいと思う。

【梅木会長】少し話はそれるが、ふるさと納税で地方交付税交付団体から外れた自治体ともあると聞いた。おそらく地域のものを、いいものを作って、それを返礼品にして、人口が多くない自治体でもやっている。そういう夢のあるプロジェクトがあるといい。庄内町はいろいろいいことはやっているし、いいものを作っているが、庄内町はこれだという全国に発信するものがない感じがする。発信の仕方だと思う。教育と絡めると、身近にあるものを子供たちに体験学習や見学などにして教えてはどうかと思う。道を歩いても気づかないことがある。例えば、カートソレイユは全国に誇れるものである。ここで育った子が体験したことがないのはもったいないと提案したこともある。ここにしかないもの、農産物なども、全国に発信する取組みは、農業の部門でも教育の部門でも必要なかと思う。

【佐藤委員】私たちが子育てしていた時は、町内会の子供会で行ったりもした。今はどうかかわからないが、そういう取り組み方もできるのではないかと。

【梅木会長】 ウィズコロナの時代で、いろんな面で、無くするものは無くし、新しいものを創り出していくということが問われてくる。それに対する支援やアドバイスが必要になってくる。それでは、次に渡部委員、どうぞ。

【渡部委員】 私は子育てが終了して、子供たちが社会に出たことを踏まえて、いろいろ考えてみた。学校は子供たちに現実的な夢を求めているように感じる。私がかたまさかそう感じただけかもしれないが、かけ離れた夢を持ってもできないのではないかという感じで、そういうのを意識が低いと捉えるのもどうかと思った。もっと子供たちの自由でいいのではないか。さっきの話にもあったが、地域をもっと知ることで、自分は農家になろうとか、お母さんになりたいとか、その反面、テレビを見てプロ野球選手になりたいかと思ったりするのはいいことだと思う。カートソレイユの話もあったが、わたしの時は、電車に乗って清川に行き、清河八郎記念館など周辺を散策させた。わたしは仕事柄知っていたので、そういうことができたが、こういうことができるというのをもっと町民にアピールしてもいいのではないか。子供たちが町を知る機会になる。

【梅木会長】 佐藤委員の文化芸術に関する部分の発言がまだでしたので、佐藤委員、どうぞ。

【佐藤委員】 さきほど、先生方の働き方改革もあって土日の事業に出られないという話をしたが、学校に日曜日の事業への参加を相談すると、学校で参加させることが難しく、父兄の理解が必要といわれたことがある。地域と一緒に学校教育を進めるのであれば、地域で行われる事業に対して、見るというもの1つの勉強だと思うので、できる範囲で参加できるものには参加してもらいたい。

【事務局】 今発言のあった総合計画後期計画に関する皆さんの意見を、事務局で取りまとめさせていただき、答申案を作成する。

【梅木会長】 まち・ひと・しごと創生総合戦略と過疎地域持続的発展計画について、2つあわせて、委員の方から発言いただく。佐藤委員、どうぞ。

【佐藤委員】 同じような話になるが、集いの場は早急に立ち上げてほしい。立ち上げにも支援が必要という話ももっともで、グループのリーダーに負担をあまりかけないようにしてほしい。立ち上げたが続かなかったということがないようにしてほしい。それから、移住者のアフターフォローで移住者交流会の記載があるが、移住者同士の交流だけでなく、地域とのつながりを持てるような場作り、最初のきっかけの支援も必要である。あと、住民の利便性のために、公共施設への無線 LAN、公衆 Wi-Fi 設備は早急にしてほしい。また、余目駅のバリアフリー化は必要だとも思う。あと、空き家対策については、住まないが悪くなると聞くので、適切な管理指導が必要だと思う。空き家の持ち主が近くにいない場合もあるので、使いたいときに使える状態にしておくべき。

【佐藤委員】 続けて、高齢者の独居世帯の孤独死が話題になるが、高齢者だけでの問題ではない。近所付き合いがないのであれば、民生委員などの協力を得るなどして、何かできることがないかと思っている。

【渡部委員】 いただいた庄内町のこれからという資料をみると、これだけ人口が減っていることにびっくりした。もっと人口減少が進むのではないかと個人的には思っている。いろんなところに目標値があるが、これは最大限、町の努力が報われた時のものと思うが、これからの町を考えると、人口が減少する想定をしないと全てが上手くいかないような気がする。人口が減るということは税収が減る。税収が減るということは、今までどおりの住民サービスができなくなる。それをみんなが理解することができるのか。今までみたいなサービスを維持していくためにはどうしなければならないかを考えなければならないが、まちづくりを主に考えている人は若い世代でなく 40 代から 50 代が多いと思うが、50 年先の未来を考えなければならないのに、自分の世代を中心に考えてしまっているように感じる。町営バスに関しても、人口が減り、高齢化が進むと、車を運転できない、自分で移動できない人が増え、バスや JR の利用が増えると思うが、今の状況では使う人がいないので、どんどんダイヤや本数なくなっていく傾向にある。公共交通手段はこれから先すぐ必要になってくると思うが、維持していくためには利用しないといけない。利用しないと必要ないということになり、なくなってしまう。今どうやって利用していくかを考えていかなければいけない。使ったことがない人は使わないので、例えば、子供たちが登校に活用できるようなダイヤにするとか、買い物しやすいダイヤにするなど、利用できる仕組みづくりがこれからは必要である。

【渡部委員】 婚活や結婚支援についても書いているが、婚活は出会いがないというのが元々の話だと思うが、出会いの場はあると思っている。町にある組織を活用し、婚活色を薄くして、同業種でも異業種でも交流できればいいと思う。結婚に対する支援についても、町内同士の人が結婚しても他市町に引っ越す人もい

る。結婚をきっかけにリフォームする際の補助とか、庄内町に住み続けるための結婚支援があるといい。

【渡部委員】続けて、庄内町の企業に求人が集まらないと聞く。求職を希望する人は、酒田市や鶴岡市で探すことが多いようだ。庄内町で探す人が少ない。庄内町に企業イメージがなく、ベッタウンのイメージが強い。まちづくりとして、もっと企業、働く場所があるというのをPRすべき。

【梅木会長】吉田委員、どうぞ。

【吉田委員】今は結婚適齢期の人口がそもそも少なくなっている。そういうことを考えると、町全体で考えることも大事だが、庄内地区とか広域に大規模に婚活できる体制も整えていく必要もあると思う。

【梅木会長】農業の後継者事情はどうなっているのか。

【海藤委員】30代から40代で結婚していない人はいる。その年齢になると積極的になれないということもあるようだ。農協でも婚活事業はコロナの前はやっていて、それなりの成果はあったと思う。やれば効果はあると思う。人口減少の話になるが、生まれてくる子供の数がここ10年、90人から100人前後で推移している。農業分野だけでなく、人口が減っていくというのは大変な問題で、これが解決できれば、行政で抱える多くの課題が解決できると思う。町としても、いろんな角度から人口を増やす策、空き家対策も含めて、住んでもらう取り組みを、大変難しい問題だが、やらないと先細りになってくる。

【梅木会長】人口減少を意識しなから、人口を増やすための努力をしていく必要がある。企業誘致にしても、おそらく人口減少を食い止めるための企業誘致だと思うが、どういう考え方で進めていくのか見えないということとは意見として書かせていただいた。

【梅木会長】そのほか、給食の無償化は進めてほしいし、幼稚園の認定こども園化について、学区再編にからめて、認定こども園化を進め、先生方が交流や研修、情報交換することで、おそらく教育の中身も変わってくると思うし、先生方の質の向上にもつながると思う。

【佐藤委員】民俗芸能の映像記録のことで、伝承ができなくなる前に、具体的にもっときちんと取り組んでもらいたい。まちづくりセンターでできるのではないかといいことだが、どこかできちんと先導して動かないと進まない。

【梅木会長】公民館がコミセンになるということで、地域活動として、全部まちづくセンターの事業になる。コミュニティスクールという場もあり、全部地域におとされるが、大事な庄内町の文化財、芸能の記録を残しておくことはお金もかかることで、地域と連携を取りながらになるが、行政が主導を持ってやらないという話である。

【佐藤委員】今までは集落の行事だったが、人が少なり、すたれてくることになるならば、近くの集落が協力し保存を手伝うとか、学区単位で保存するとか、様々な角度から映像にとって記録に残しておけばつながっていくと思う。

【梅木会長】今回の計画をみると、どの部門でも新しく付け加える事業が増えていると感じる。コロナの影響もあるかもしれないが、成果が上がったという項目があまりなく、かわりに新しいものが増えていると思った。

【渡部委員】人口減少や結婚の話題を機論したが、結婚しない選択している人もいる。結婚して子どもをという考え方もあるが、それに限らず、移住の推進によって人口を増やす施策もある。結婚して子どもを産まなければという流れだけでなく、いろんな選択肢がある。多様な人を受け入れるようにすべき。

【事務局】皆さんからいただいた意見をもとに、事務局でまとめさせていただく。多くの意見をいただいたので、1つ1つの項目をまとめるのではなく、関連する項目をまとめて答申案を作成することになる。事務局で作成したものが意図していないまとめ方になった場合は、次回会議の時に意見いただきたい。まとめた答申案は、次回会議前に皆さんに送付する。

【梅木会長】それでは特になければ、以上で終了する。

3 その他

4 閉 会 20:30